

IV 特色ある教育活動



(1) 新しい時代に対応する資質・能力を育成する

- 生命や人権を尊重する精神や感性を育むとともに、学びに向かう力を育み、主体的に学習に取り組むことで、知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 思いやりの心や協調性、道徳性、感受性やコミュニケーション能力を育むことができるように、異年齢集団の活動として、全校遠足・なかよし給食・なかよし遊び・児童集会等の活動を年間指導計画の中に位置付ける。
- 各教科等で育む論理的・創造的な思考力を基盤として一人1台端末等のICT機器を児童自身に日常的に使用させることで、プログラミング的思考の育成や新たな学習方法の獲得を進め、学習活動の質的充実を図る。
- これまでのオリンピック・パラリンピック教育を生かして、体育学習の充実や体力の向上を図るとともに、運動習慣確立のための取組の充実を図る。
- 感染症やその予防に関する知識や意欲を、体育科保健領域や家庭科、定期的・日常的な保健指導を通して育成し、健康の保持増進を図ろうとする態度の育成を目指す。

(2) グローバルな社会で活躍する人材を育成する

- 美しいものや崇高なものに感動する心、夢や希望をもち、社会に貢献するところざしを育むために、ところざし教育副読本「ところざし高く」等を活用した道徳教育・生き方を考える教育に取り組む。
- 「学びのキャンパスプランニング」等を積極的に活用し、「学びのエリア」である上野の森の自然や歴史、人材・文化施設を生かした学習や地域人材を招聘した学習に取り組む。

(3) 多様なニーズを具現化する教育を展開する

- 難聴・言語障害通級指導学級や特別支援教室の教員による通常学級での理解啓発授業や授業観察、学級担任との情報共有の実施により特別支援教育・ユニバーサルデザインの教育の推進を図る。
- 21.5世紀に活躍する児童の未来像をもとに、そこで必要な資質や能力を育てるための、黒門流「学びに向かう力」等に関する研究を深め、教員の指導力を高め、授業改善を図る。

(4) 持続可能な社会を創造する教育を展開する

- 教育内容を多様な方法で発信し、理解と協力を求めるとともに、Web機能での保護者評価等を実施し、授業や行事等の内容改善を進める。双方向のやり取りを通して、組織を活性化させ、PDCAサイクルを充実させる。
- 近隣校園や社会教育施設との連携組織を生かし、指導の系統性・学びの継続を重視した教育活動を展開する。

V 校内研究の充実

令和4・5年度 台東区教育委員会研究協力学校

21.5世紀を拓く ～学びを楽しみ、自ら学び続ける児童の育成～

本校では、子供たちが変化し続ける社会に対応するために、生涯にわたって主体的に学び続けるための意欲や、他者と協働して学ぼうとする姿勢である「学びに向かう力」を育むことに重点をおいた授業づくりを行ってきました。授業づくりを行う際には、これまでの研究の蓄積から10の手だてを活用しています。

本年度は一人1台端末の活用を通して学習してきたことを振り返ったり、意見や考えなどを共有したり、課題の解決に向けて試行錯誤を繰り返したりする「個別最適な学び」と「協同的な学び」の実現を目指しています。



学びに向かう力を育む10の手だて

明確な
学習ゴール

インパクトの
ある導入

ねらいの
焦点化

揺さぶりの
ある問い

必要感のある
学びあい

自己有用感を
高める
価値付け

自己を
見つめる
振り返り

実感を伴う
学習

実態を
ふまえた
教材の工夫

学びを
広げる環境